

橫山成教  
小川重喬  
渡邊義雄

擬律必携

中

CZ  
711  
02

共  
十  
本

東 京 圖 書 館

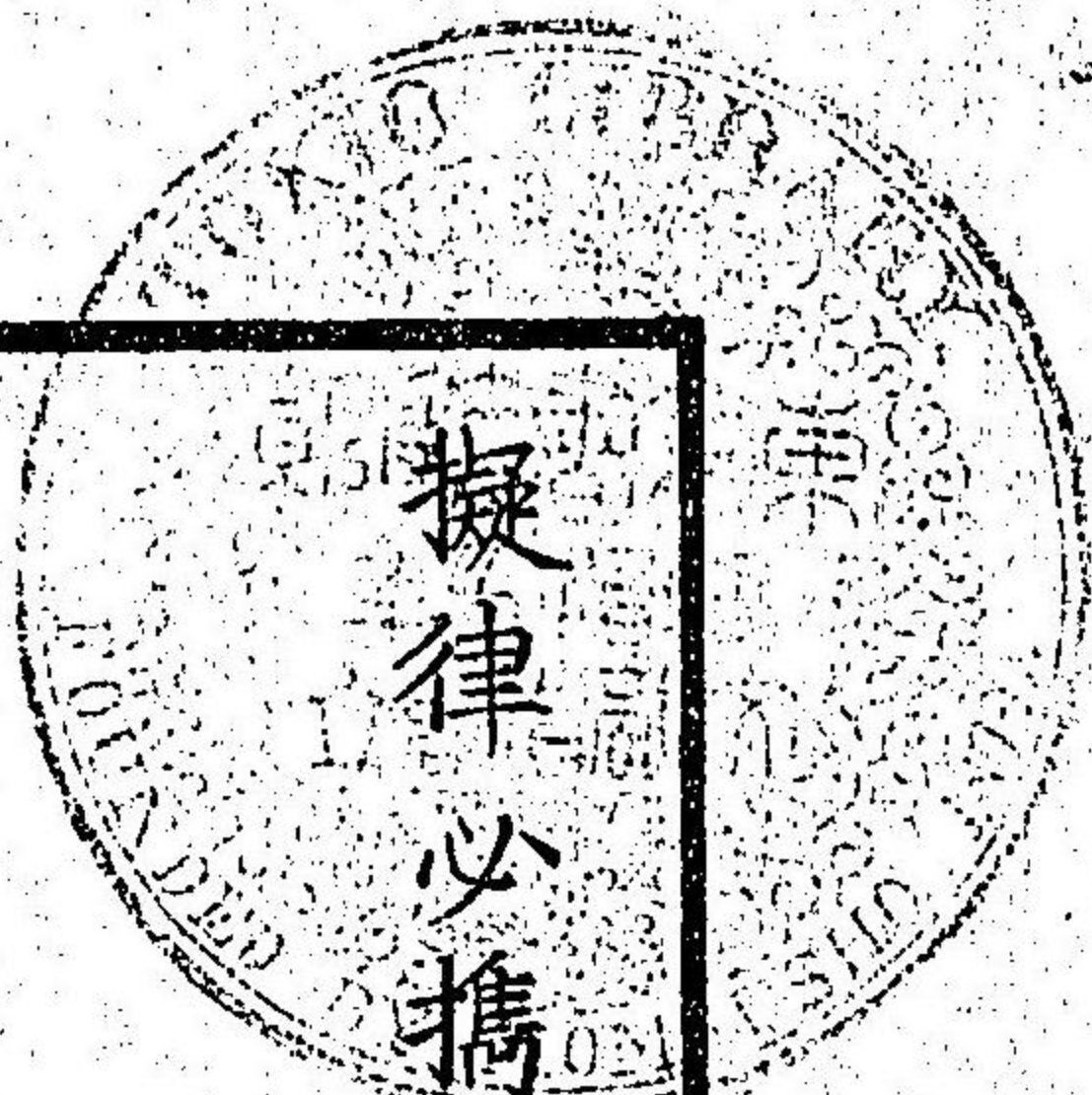
新 門 一 四 函

一 部 二 架

類 二 〇 二 號



CZ  
711  
02



東書

東不  
職制  
律

擬律必携二編中卷

明治八年文部省交付

横山成教

渡邊義雄

同輯

小川重喬

遺失詔書

遺失シ及ヒ誤毀スル者ハ杖一百水火

盜賊ニ因リ毀失シテ顯跡アル者ハ坐セズ

棄毀官文書

新律細領

凡官ノ文書ヲ故サラニ棄毀スル者ハ杖一百重

律中

二



事ニ纏スル文書ハ一等ヲ加フ規避スル所アル者ハ重キニ從テ論ス誤毀スル者ハ杖七十遺失スル者モ罪同省臺察司府藩縣ノ文書ハ各二等ヲ減シ餘ノ文書ハ各五等ヲ減ス若シ官物ヲ注守シテ簿書ヲ遺失シ以テ錢糧數目ノ錯亂ヲ致ス者ハ杖八十其水火盜賊ニ因テ毀失スル者ハ坐セス

置賜縣伺 二十七年三月

職制律棄毀官文書條凡官ノ文書ヲ故サラニ棄毀スル者ハ杖一百云々誤毀スル者ハ

杖七十云々省臺察司府藩縣ノ文書ハ各二等ヲ減シ餘ノ文書ハ各五等ヲ減スト有之處右五等ヲ減スルトハ官省察司府藩縣ノ別ナク一百及ヒ七十ヨリ直チニ五等ヲ減シ可然哉

院省察司府縣ノ金穀請取證書ヲ誤毀若クハ遺失スルニ頭助知事令參事ノ押印アルハ察司府藩縣ノ文書ヲ以テ論シ出納金穀等ノ課印アルハ餘ノ文書ヲ以テ可論哉

指令



第一條 官省寮司府縣ニ餘ノ文書ヲ以テ  
論ス可キ者ハ一百及ヒ七十ヨリ五等ヲ減  
ス可シ

第二條 金穀請取證書ノ如キ知事等ノ捺  
印アルモ金穀課ノ印ト同ク餘ノ文書ヲ以  
テ論ス

新川縣伺 七年五月十日

判任官及等外辞令ヲ遺失スル者且拾得  
ル者處分如何致シ可然哉

指令

縣ノ文書ヲ遺失スルヲ以テ論ストイヘ凡  
他人之ヲ拾得遺失ニ給セハ罪ノ問フ可  
キナシ 但シ辞令書ハ物質ノ如キ價アル  
者ニアラス拾得者ニ於テ處分ノ方法アラ  
ス

和歌山縣伺 七年十一月十九日

俸祿書付ヲ遺失スル者官ノ文書ヲ遺失ス  
ルヲ以テ科断ス可キ旨先年京都府へ御指  
令ニ相成候へ凡舊例ニハ標準致シ難キ乎  
依テ地券狀遺失スル者ニ權衡ヲ參酌シ其



罪ヲ論セス可然哉將夕地券狀ト家祿書付  
トハ同一ニ府縣ノ印章ヲ捺用シ下付スル  
者ト雖モ其原由ヲ推論スレハ輕重懸隔ス  
ルニ付府縣ノ文書ヲ遺失スルヲ以テ論シ  
可然哉

指令

府縣ヨリ下付スル處ノ家祿下賜ノ書付ヲ  
遺失スル者ハ府縣ノ文書ヲ遺失スルヲ以  
テ論ス

職制律

棄毀官文書條例

第一百一條 凡官廳ノ通行印鑑ヲ遺失シ及ヒ誤  
毀スル者ハ懲役十日

茨城裁判所 同 三十九年十一月

辛未七月民部大藏兩省ヨリ布令相成候清  
濁酒醬油鑑札取與并取稅方法規則第一則  
ニ免許鑑札萬一流失燒失或ハ盜難等ニテ  
失候者ハ其段租稅司へ申立更ニ鑑札相下  
可申ト有之右ハ燒失流失盜難等ノ事ニ因



ニ非スシテ其念懈ニ因リ遺失スル者ハ幾  
許ノ罰金申付可ク哉

指令

改定律例第百一條ニ照シ贖罪金七十五錢  
可申付事

白川縣伺 七年二月

鳥獸獵規則第八條鑑札ヲ遺失スル者云々

トアル但書ニ其遺失スル者ハ印鑑遺失例  
ニ照ス可シト之アルハ改定律例第百三條

餘ノ印ハ各五等ヲ減スル例ヲ照シ懲役五

十日贖罪ニ處ス可キ儀ニ相見候所右ハ全  
ク無心過失ノ罪ナルニ三圓七拾五錢ノ贖  
罪ハ法甚ク苛酷ニ相見ハ若クハ同律例第  
百一條官廳ノ通行印鑑遺失スル者ノ權衡  
ニ依リ擬ス可キ譯ニハ有之之間敷哉

指令

改定律例第百條ニ照シ處決スヘシ

第百二條 凡官司ノ密事ヲ漏泄スル者ハ懲役

一年輕キ者ハ一等ヲ減ス

第百三條 凡官ノ印ヲ棄毀スル者ハ懲役二年



遺失シ及ヒ誤毀スル者ハ懲役百日院省察司  
府縣ノ印ハ各二等ヲ減シ餘ノ印ハ各五等ヲ  
減ス規避スル所アル者ハ各重キニ從テ論ス

京都裁判所伺七年二月

改定律例第百三條凡官ノ印ヲ棄毀スル云  
々トアルハ文部卿ノ印租稅頭ノ印ノ如キ  
其省寮公務ニ用ユル長官ノ印ハ仍ホ省寮  
ノ印ニ依ル可キヤト先般相伺候處伺ノ通  
ト御指揮之アリ右ハ素ヨリ其長官文書或  
ハ諸願伺等ニ押印シタルモノヲ云フニ之

アル可キニ付府縣ニ押シタル文書ニ其長官  
押印シタルモ仍ホ府縣ノ印ヲ以テ論ス可  
キ哉ノ處司法省日誌第六十五号新潟縣伺  
御指令ニハ部内ヨリ差出ス諸願伺縣ノ長  
官押印ノ指令書ヲ誤毀遺失スルハ縣ノ餘  
ノ文書ヲ誤毀遺失スルヲ以テ論ストアリ

指令

其裁判所伺ハ文部卿及ヒ租稅頭ト綱トス  
ル印ヲ棄毀スルノ指令タリ新潟縣伺ハ部  
下ヨリ上申シタル長官押印ノ文書ヲ誤毀



遺失スルノ指令タリ因テ之ヲ比較同視ス  
可キニ非ラス 但諸省憲司府縣長官ノ自  
印ヲ棄毀スル等ハ省憲府縣ノ印ヲ以テ論  
スルノ限ニ在ラス

詔書有違

凡詔書ヲ奉シ施行スルニ官吏故サラニ違フル  
者ハ後二年失錯スル者ハ杖八十誤寫スル者ハ  
笞四十未夕施行セサル者ハ一等ヲ減ス若シ官  
ノ文書ヲ施行スルニ故サラニ違フル者ハ杖八  
十失錯スル者ハ笞五十誤寫シテ事ニ謬アル者

ハ笞三十省臺憲司府藩縣ノ文書ヲ故サラニ違  
フル者ハ並ニ杖七十失錯スル者ハ笞四十誤寫  
シテ事ニ害アル者ハ笞二十餘ノ文書ハ各一等  
ヲ減ス害アラサル者及ヒ未夕施行セサル者ハ  
並ニ論スルヲ勿レ

千葉裁判所 同 月 十日 三

千葉縣已決監獄リノ者當裁判所ヨリ交付  
スル懲役人ノ罰文ヲ謄寫シテ他ノ簿冊ニ  
登記スル其際懲役六十日ヲ五十日ト誤寫  
シ依テ其囚人役限滿スシテ放免ノ右誤寫



スル官吏ハ職制律詔書有違條省寮司府縣ノ文書ヲ誤寫シテ事ニ害アル者ハ笞二十并斷獄律出入人罪條出タスニ失スル者ハ五等ヲ減ストアルニ擬シ重キニ從テ科シ其囚人ハ既ニ放免セラレ儀ニ付餘ノ日數更ニ拘役致サセ候テ可然哉

指令

總テ伺ノ通

上書奏事錯誤

凡上書及ヒ奏事ニ錯誤シテ原免ト言フ可クシ

テ不免ト言ヒ十石ト言フ可クシテ十石ト言フノ類事ニ害アル者ハ笞五十官ニ申スル文書ハ笞三十省臺寮司府藩縣ニ申スル文書ハ並ニ笞二十其餘ニ申スルノ文書ハ笞一十若シ申スルトコロ錯誤アリト雖モ文案行フ可クシテ事ニ害アラサル者ハ論スル下勿レ

濱田縣伺 七年四月一日

石見國那賀郡 齊藤 吉十郎

部内人民ヨリ官廳へ進達スル文書添削ノ依頼ヲ肯シニ誤テ緊要ノ文字ヲ削リ事ニ



害アル者上書奏事錯誤律縣ニ申スル云々  
答二十ト云ニ依リ贖罪可申付哉

指令

伺ノ通 縣ニ申スル文書ニ錯誤シテ事ニ  
害アル者懲役二十日贖ヲ聽シ處斷スヘシ

但シ寺戶善三郎外一名痺犯ノ所由ヲ審

問シ其所由一人ヲ罪ニ坐ス可シ

事應奏不奏 新律綱領

凡軍務錢糧制度死罪災異其他事奏ス可クシテ  
奏セサル者ハ杖七十上司ニ申ス可クシテ申セ

ス下司ニ行ス可クシテ行セサル者ハ答三十規

避スル所アル者ハ重キニ從テ論ス

若シ已ニ奏シ已ニ申シテ回報ヲ待タス輒ク施

行スル者ハ並ニ不奏不申ノ罪ニ同

失誤朝賀 新律綱領

凡朝會慶賀ヲ所司先キニ告示セサル者ハ答三  
十其已ニ告示ヲ承ケテ失誤スル者モ罪同

失儀 新律綱領

凡祭祀及ヒ園陵ニ謁拜シ若クハ朝會ニ礼ヲ行  
ヒテ差錯シ及ヒ儀ヲ失スル者ハ答一十



擅離職役 新律細領

凡官吏疾病公差等ノ故無クシテ擅ニ職役ノ離  
レ外ニ出ル者ハ笞三十若シ難ヲ避ケ因テ逃走  
スル者ハ杖九十避ルトコロ事重キ者ハ各重キ  
ニ後テ論ス  
若シ官吏直宿ス可クシテ直宿セサル者ハ各笞  
一十因テ事ヲ失スル者ハ重ニ後テ論ス

京都裁判所伺 七年三月

改定律例第百二十條官廳ニ陳告セスシテ  
私擅ニ他管ニ出テ五十日ヲ過ル者ハ違令

重ニ問フトアルニ依リ新律擅離職役條云  
々擅ニ外ニ出ル者モ其儘他管ニ踰エ五十  
日ヲ過レハ懲役四十日ニ科ス可キ哉

指令

新律擅離職役條官吏云々擅ニ職役ヲ離レ  
外ニ出ル者ハ同管他管並ニ日數ノ多寡ヲ  
論セス懲役三十日若シ他管ニ出テ五十日  
ヲ過レハ伺ノ通

滋賀縣伺 七年七月  
十二日

當縣下區戸長ノ如キ他行政度者ハ公務上



第千八百号  
明治七年三月  
月八日  
御布達

差支無之様同僚申合セ置他行政スヲ差許  
置候處若シ同僚へモ不申置商用等ニテ擅  
ニ他管ニ出ルモ其實際上尋常官吏ト同ク  
擅離職役律ニハ照シ難キ場合有之然ト雖  
モ又平民ト同ク論シ難シ故ニ情ヲ量リ違  
式輕重ニ擬シ五十日過ル者ハ違令重ニ擬  
シ復歸自首スレハ首免ヲ與へ可然哉  
指令  
正副區戸長ノ犯罪ハ本年第二十八号御達  
一依リ等内外人ヲ以テ處断ス然シ本文ノ

區長戸長身  
分取扱ノ儀  
明治六年第  
四百号ヲ以相  
達候處自今  
官吏ニ准依條  
追テ一定ノ規則  
相立候 追區長  
副區長ハ十二  
等ヲ十五等  
追長副長  
八等外一等ヨ  
リ六等迄各  
地方適宜ニ  
相定俸給ノ  
儀ハ大藏省  
手申第百四十  
六号布達ノ  
通可相心得此  
旨相達候事  
但等級并  
俸給トモ  
取調内務省  
ハ可届出

如キ事情輕キ者ハ違式ニ問フト雖モ重キ  
者ハ擅離職役律ニ依ル首免ヲ與フルノ限  
ニ在ラス  
無故不朝參公座

凡官負故無クシテ朝參公座セス及ヒ給暇ノ限  
滿テ故無ク職役ニ還ラサル者ハ一日ニ答一十  
三日毎トニ一等ヲ加へ罪杖八十二止ル

島根縣伺 七年十一月十五日

一ノ官吏アリ疾病ト詔リ不參ヲ届ケ其實  
ハ私事ニ奔走ス之ヲ断スルニ上ニ告ルニ



詐テ實ヲ以テセサルノ輕キトナサハ懲役  
八十日茲ニ綱領詐稱<sup>スル</sup>病死傷條ニ凡官吏人  
等疾病ト詐稱<sup>シ</sup>事ニ臨<sup>テ</sup>難ヲ避クルモノ  
ハ笞三十避クル所重キ者ハ杖七十トアリ  
其難ヲ避ケン為メニスルモ私事ニ奔走ス  
ルモ疾病ト詐稱スルハ一ナリト雖モ其情<sup>シ</sup>  
状タルヤ私事ニ奔走スルハ其難ヲ避ケン  
為メニスルヨリ輕キハ論ヲ俟タス然ルニ  
其輕キモノヲ重キニ處シ其重キモノヲ却  
テ輕キニ處スルハ權衡甚タ惑フ右等ノ間

疑義ヲ生シ候ニ付相伺候也

指令

本文ノ如キハ無故不朝參公座律ニ照シテ  
論レ贖ヲ聽ス

但シ例第二百四十七條對詔云々除ク外  
實ヲ以テセサルトハ其本律ノ重事ヲ除  
キ上告ノ輕事ヲ酌量スルノ例トナス詐  
稱病死傷律ハ自己擔當ノ職務等辨シ難  
キヲ一時避ルカ如キモノヲ責ルノ條ト  
心得ヘシ



衝突儀仗

凡車駕行幸ノ處ハ近侍及ヒ護駕ノ官軍ヲ除ク  
外其餘ノ軍民ハ並ニ迴避スヘシ敢テ儀仗内  
ニ衝入スル者ハ杖一百

至下馬牌不下

凡下馬牌ニ至リ下ラスシテ過ル者ハ笞四十  
宮ハ一等ヲ減ス

出納有違

凡官物ヲ出納シテ給收違フ一有ル者ハ虧餘  
ル所ノ物ヲ計ヘ坐贓ヲ以テ論ス

京都裁判所 同 六年十月

京都府十一等 小木 富言

右待罪書ノ通士申二月各府縣貫属ノ内

舊藩中適宜ヲ以テ士族卒俸二三男等へ遣

置候給祿等廢止セラル段御布告後京都府

ヨリ大蔵省へ申請ノ指令ヲ誤解致シ同年

三月ヨリ同九月迄ノ扶給米逐次下ケ渡候

其代金千九百五圓餘職制律出納有違條云

々ニ照シ贓千圓餘懲役三年官吏公罪罰俸

例圖ニ依リ罰俸三個月可申附哉



同府權中属 尾河 正明

右待罪書之通ニテ小木富言カ失錯スル  
ヲ覺察ニ失スルニ依リ第二後ヲ以テ論シ  
一等ヲ減シ懲役二年半官吏公罪罰俸例圖  
ニ依リ罰俸二箇月半可申付哉將タ其失錯  
富言カ專斷ニ出ルヲ以量減ノ御處置モ可  
有之哉

追テ知参事ノ御處置併セテ奉仰候

指令

大藏省ノ指令ヲ誤解シ廢止ス可キ俸禄ヲ

支給スル後自ラ覺舉申シ更ニ同省ヨリ  
其錢糧ヲ貸與スヘキ指令アルモ出納ノ際  
現場虧欠スル所アルニ依リ 職制律出納  
有違條 官物ヲ出納シテ 給収違フ有ル  
者ハ虧餘スル所ノ物ヲ計ヘ坐贓ヲ以テ論  
スト云ニ依リ千圓以上懲役三年ノ所官吏  
公罪罰俸例圖ニ照シ

罰俸三月

小木 富言

同僚中差錯アルヲ失察スト雖モ其事務ヲ  
擔當スルハ只タ主任一人ニ在ルヲ以テ其



罪ヲ問ハス

無罪

尾河 正明

廢藩合併諸事混濁ノ際知忝事ノ許可ヲ經スレテ施行スルヲ以テ知忝事ハ別途推問スルニ及ハス

濱松縣伺 十七年四月

凡詞訟ニ付割賦金下付ノ際官吏ノ調査ニ失シテ給収ヲ違フ者如何處斷可致哉

指令

職制律出納有違條ニ依ル可シ

那移出納 新律綱領

凡官吏錢糧等ノ物ヲ出納スルニ文案勘合アリテ那移ス可カラス若シ文案勘合ニ依ラス那移出納シ還テ官用ニ充ル者ハ脏ニ計ヘ坐脏ヲ以テ論ス

秋田縣伺 十七年一月

當縣士族

高久 景光

右罪案之畧ノ通地券大成ノ時ニ在テ其職ニ處リ深ク上司ノ意ヲ体認シ公私ノ為メ速ニ裁ヲ要スルノ意急ナルヲ以專斷シテ官金



ヲ勸獎投藥ノ諸費ニ繰替ルト雖モ毫モ私  
ニ涉ラス結局自カラ償完スルヲ以テ那移出  
納條ニ依リ禁錮一十日申付可然哉

指令

深ク上司ノ意ヲ体認シ一己ノ處分ヲ以テ  
賞ヲ行フニ依リ 那移出納條 文案勘合  
ニ依ラス那移出納スト云ヲ以テ論シ賍金  
五圓以下禁錮十日ノ處事情ヲ量テ  
贖罪金七拾五錢 高久 景光  
私借官物 新律綱領

凡監臨主守私ニ監守スル所ノ官物ヲ借用シ若  
クハ人ニ轉借スル者證書ナキハ監守盜ニ準シ  
テ論シ罪流三等ニ止ル證書アルハ二等ヲ減ス  
其監守人ニ非スレテ借ル者ハ常人盜ニ二等ヲ  
減シ罪徒三年ニ止ル若シ自己ノ物ヲ以テ官物  
ニ抵換スル者罪亦同

改正私借官物律

第百五條 凡監臨主守監守スル所ノ官ノ財物  
ヲ私ニ借用シ若クハ人ニ轉借シ及ヒ自己ノ  
物ヲ以テ官物ニ抵換スル者ハ監守自盜ト罪



同其監守人ニ非スシテ借用シ情ヲ知ル者ハ  
罪同知ラサル者ハ坐セス

高知縣伺 七年一月十五日

別紙罪案之ノ通井窪下角兩村貢物代金拂

右村ノ者ヨリ合田正繁士族ニテ村手前へ

相渡候上ハ官物ト見做シ用相勤候者農民へハ貢米再

追徴不致候テ可然哉

指令

其事務ヲ擔當シ収徴スル貢米ノ代金ヲ私

擅ニ費用フル者 私借官物條 監臨主守

私ニ監守スル所ノ官物ヲ借用シ證書ナキ  
ハ監守盜ニ準シテ論シ罪流三等ニ止ルト  
アルニ擬シ

除族懲役十年 賍金百三十三圓餘 合田 正繁

犯罪私借官物律改正前ニ在ルヲ以テ

斷罪依新頒律條例ニ依テ擬定ス且六

十四圓餘ノ賍ハ改律後ニ係リ監守盜

ヲ以テ論スルモ前賍ニ併スレハ罪等

シ一二後テ科ス

給没賍物條例ニ照シ處分ス可シ農民ヨリ



再ヒ収徴ス可ラス

埼玉裁判所伺 七年四月十二日

戸長副戸長等其町村ノ租税金ヲ地方廳ヘ  
完納スヘキ期限ニ先夕千預メ人民ヨリ取  
集メ管守中私借費用シ由テ納期ニ違フ者  
職制律監守スル所ノ官ノ財物ヲ私ニ借用  
スル者ニ準シ破廉耻甚ク以テ論シ其脏ハ  
身代限追徴シ尚不足アル片ハ官ノ損失ニ  
止ムル哉 但本文身代限掲示及ヒ金圓  
配等ノ諸方法ハ通常私債ノ者ト総テ異ナ

ルナキ哉

指令

私借官物律ニ依リ罪ヲ科シ脏已ニ費用ス  
レハ資力限追徴ス可シ 但書刑法上盜賊  
追徴ノ法民法身代限ノ法ト異ナレハ掲示  
及ヒ分配等ノ方法ヲ用ユル限ニ在ラス  
私借官物條例

第百六條

凡監臨主守監守スル所ノ錢糧ヲ私  
ニ借用シ若クハ人ニ轉借シ及ヒ之ヲ借ル者  
事未タ發覺セシテ完備スル者ハ止夕犯情



ヲ量リテ不應為ニ問ヒ輕重ヲ分ツ

新潟縣伺 七年二月 二十日

當縣士族西牧利道小笠原重親小川吉利大  
島武重白石吉次郎川島與三郎等罪案之畧ノ  
通ニ付賊盜律監守自盜條ニ照シ皆除族紋  
罪可申付哉

指令

誅<sup>ソツ</sup>犯<sup>ガ</sup>會計ノ任ニ在リテ本藩<sup>セイゾウ</sup>製造ノ紙幣<sup>シ</sup>三  
萬圓ヲ私借スト雖モ悉<sup>シ</sup>皆竊カニ償<sup>キ</sup>還<sup>ス</sup>斷<sup>ズ</sup>裁<sup>ス</sup>  
ス且ツ千圓ヲ轉借スルモ亦完納スルヲ以

テ更ニ官金ニ虧<sup>キ</sup>次<sup>ク</sup>スル所ナシ因テ例第百  
六條監臨主守監守スル所ノ錢糧ヲ私ニ借  
用シ若クハ人ニ轉借シ云々事未夕發覺セ  
スシテ完備スル者ハ止夕犯情ヲ量リテ不  
應為ニ問シ輕重ヲ分ツトアルヲ以テ論シ  
雜犯律不應為重ニ問擬シ懲役七十日士族  
タルヲ以テ閏刑ニ換ヘ

禁錮七十日 小川 吉利

餘罪ハ等シク或ハ輕シ並ニ論セス但  
配<sup>ハイ</sup>分<sup>ブン</sup>ヲ受ケ及ヒ己レニ入ル、利<sup>リ</sup>金<sup>キン</sup>ハ



追シテ官ニ没ス

誅犯以下償還  
延同前文斷裁スルヲ以テ更ニ官金ニ虧欠

スル所ナシ因テ小川吉利ト同夕擬シ

同 大島 武重

餘罪云々同上但シ配分ヲ受ル利金ハ

追シテ官ニ没ス

以下畧ス

不覺被盜

凡倉庫内ノ物ヲ盜マレテ主守カササニ失スル者

ハ笞四十其強盜ニ遇ヒ防禦バウギョスト雖モ力敵スル

不能ハサル者ハ論スル勿レ

愛媛縣伺七年三月  
十五日

本縣下越智郡八大區事務所ミトフアツカフトニ於テ昨明治

六年十月二十二日夜雜税金二十五圓二十

七錢六厘被盜取候段届出尔来遂搜索候へ

共本犯不相分則右區長及取糾候處多少民

費ニ關係ヲ顧念シ宿藩シヨクバンノ者モ不差置ヲリ

右様不都合ヲ釀成カモスシ何共恐入ノ段申出候

區長ノ處分右ノ順序ヲ以スレハ職制律不

覺被盜條ニモ擬シカクシ何律ニ依リ處分



可仕哉將雜税金ノ儀ハ本犯捕縛セサレハ  
現在費用モ不相分依テ如何處置可仕哉

指令

事務所ニ主守者ナケレハ則管守ノ責區長  
ニアリ不覺被盜律ニ問ハサルヲ得ス其盜  
贓ノ如キハ遂ニ追徴スル能ハサレハ官ノ  
損失トス

滋賀縣伺 七年七月廿八日

職制律不覺被盜條ハ主守トハ別ニ倉庫ノ  
看守ノ為メ不寐番申付置ク者ノミヲ云フ

乎又ハ尋常宿直ノ者モ亦主守ト見做シ候  
哉當縣廳ノ儀ハ諸課ノ内ヨリ二人聽訟課  
中警察專務二人縣掌一人都合五人ツ、宿  
直セシメ諸課ノ内ヨリ相勤候者ハ諸課ノ  
事務ヲ取扱警察掛リノ者ハ臨時盜賊等ノ  
訴有之ヲ取扱候成規ニテ何レモ各所ニ寐  
臥致シ不寐番等ハ申付置カサル儀ニ候へ  
共外ニ倉庫ヲ看守スル者モ無之ニ付何レ  
モ主守ト見做シ若シ官物ヲ盜マル、ニ覺  
察ニ失スル片ハ不覺被盜ノ罪ニ坐シ可然



哉ト存候へ共素ヨリ倉庫者守ノ為メ不寐  
番申付置カス公然安眠致居ル儀ニ付尋常  
主守者ト同ク不覺被盜ノ罪ニ處スルハ如  
何ト疑ヲ生ス且右五名ノ者均ク失察スル  
儀ニ候へ共各寐卧スル所ヨリ倉庫ノ遠近  
モ有之何レモ同罪ニ處スルハ公平ナラス  
ト存候旁如何處分シテ可然哉 但シ其倉  
庫距離遠隔ニ係リ尋常覺察ニ失スルニ擬  
ス可カラサルノ情アル者ハ御省日誌昨六  
年第二十五号權中解部神谷正喬ナル者待

罪書御指令ニ照準シ本罪一等ヲ減シ可然  
哉又ハ垣牆内ニ在ル木石等ヲ盜ミ覺察ニ  
失スル者ニ擬シ可然哉是亦伺添候也

指令

不覺被盜條ノ主守トハ倉庫ヲ者守スル者  
ヲ云フ尋常宿直ノ者ヲ云ハサルモ宿直ニ  
テ其者守スル所ノ物盜マレ覺察ニ失スル  
時ハ乃チ主守ト罪同シ本文ノ如キ各所ニ  
宿直スルモ倉庫ヲ者守スル委任ナキ者ハ  
罪ノ問フ可キナシ官物ヲ盜マルモ亦同



シ然シ財物ヲ貯積スル倉庫ニ者守者無カ  
ル可ラス

但書本文ニ照シ會得ス可シ

埼玉裁判所同十七年八月  
十二日

職制律不覺被盜條別ニ減等ノ法不相見候  
ハ共是亦捕亡律主守不覺失囚者ノ權衡ニ  
照準シ三十日間搜索期限ヲ給シ其限内及  
ヒ限ヲ過ルモ未斷決ノ時ニ在テ其物ヲ還  
取スルカ或ハ盜犯就縛及ヒ出首及ヒ竊ニ  
投還スル等ニ由テ能ク完足スルヲ得レハ

主守ノ罪二等ヲ減シ科斷シテ如何可有之  
哉

指令

盜犯出首投還等ニテ其物偶完全スルヲ  
得ルニ主守不覺ノ罪ハ律例ノ通減等ナク  
科斷人可シ

不覺被盜條例

第一百七條 凡垣牆内ニ在ル木石等ヲ盜ミ主守

覺察ニ失スル者ハ懲役二十日

戸婚律



差役不均 新律綱領

凡官吏里長等差役ヲ科スルニ法ニ違ヒ平均ナ  
ニサル者ハ笞五十財ヲ受ル者ハ賍ニ計ヘ枉法  
ヲ以テ重ニ從テ論ス

欺隱田糧 新律綱領

凡田糧ヲ欺隱レテ版籍ニ脱漏スル者ハ一畝ヨ  
リ五畝ニ至ルハ笞三十五畝毎トニ一等ヲ加ヘ  
罪杖一百ニ止ル其田ハ官ニ入レ隱ス所ノ稅糧  
ハ數ニ依テ徵納ス里長知テ舉サルハ犯人ト同  
罪

濱田縣同 七年三月 十二日

震災又ハ水災ノ變ニ乘シ里長利ヲ圖ン  
ヲ欲シ其災害ニ罹フサル田畑ヲモ破壊或  
ハ流亡セシト偽リ免稅ヲ乞フニ當リ官之  
ヲ信レ起返シノ年限ヲ積リ五年或ハ七年  
間免稅ト究ル後其詐欺ナルヲ欺隱ニ及フ  
片ハ里長ハ免シヲ受シ稅糧ヲ賍ニ計ヘ監  
守盜ヲ以可論儀ト存候所右免稅ト究ル年  
限中假令ハ七箇年ノ免稅ナルニ二箇年ニ  
シテ發覺スル片ハ殘ル五箇年ノ稅ハ未夕



手ニ入ラサルヲ以テ論ス可キ所稅米ノ價  
 年々等シカラサルニ依リ預メ賍ヲ計算ス  
 ルノ難レ然リト雖モ五箇年ノ後ヲ俟テ罪  
 ヲ定ル片ハ數年ノ間空レク囚人ヲ繫獄ス  
 ルニ至ル如此片ハ如何處分仕候テ可然哉  
 破壊ト詐リ候田畑ト雖モ其免稅年限中真  
 ニ破壊流亡等セシ片ハ檢査ノ上至當ノ年  
 間免稅ヲ與ヘ其免稅ヲ與ヘシ年限ハ賍ニ  
 計ヘサル儀ニ可有之哉

指令

第二十九号

明治七年三月十四日大

政官御布告

改定律例第百

八條刑法三閱

係無之ニ付刪

除條條皆布

告候事

但明治五年

九月第百

八十五号布

令ハ是迄通

可相心得事

第百八十五號

明治五年九月

廿四日政官御

布告

第一條 田畑ノ破壊流亡ヲ詐偽シテ免稅  
 ヲ得ル者ハ欺隱田糧律ニ依テ處斷シ其納  
 ム可キ稅糧ハ納メシノ田ハ官ニ入ルノ限  
 ニ非ス

第二條 免稅年限中眞ニ破亡スル者ハ爾  
 後ノ免稅ヲ與フ可シ其破亡前ノ詐偽ニ係  
 ル者ハ前條ニ同シ

欺隱田糧條例 改定律例

第百八條 凡稅糧ヲ納ムルニ限ニ違フテ完セ  
 サル者ハ明治五年第百八十五号布令ニ依



可有之...  
各縣ヨリノ上  
納皆濟期限  
通不行爲甚以  
テ不相濟事  
ニ候以米天災  
地變其他無  
餘儀事致有  
之候ハ格別萬  
一人民心得方  
等間ヨリ兼  
テ解達期限  
迄各其管轄  
廳ハ納方不致  
者ハ一箇月毎  
ニ不納金百円ニ  
付幸錢ノ利  
息ヲ如上納可  
為致ハ其年  
七月ニ至ル迄  
猶納方相滞ル  
ニ於テハ本人  
身代限リ申付

テ處令ス

小田縣伺 七年二月二十三日

明治四年ノ租税米金完納セサル者元倉敷  
縣ヨリ引送り相成爾後節々督促シ再三期  
限ヲ與フレバ遂ニ完セサル者アリ事ハ御  
布令以前ニ係ルト雖モ明治五年第二百八

本稅利令トモ  
一同爲差出候  
積目ハ得共言  
兼テ管下村町  
ハ不淺様有違  
致シ此度長條  
可相立事  
方之通相違候  
條相違候ハ納  
方皆消期月ノ  
通上納取討  
人民上納違  
延ノ爲ハ管轄  
難相成分ハ  
其次第年々  
五月十五日迄同  
察ノ可相立事  
第四百二十三号  
明治六年十二  
月廿五日大政  
官柳布告  
租稅不納ノ者  
身代限リ取

十五号御布令ニ依リ處令可然哉

指令

伺ノ通 但明治六年第四百二十二号布告

ヲモ照準致ス可キ事

滋賀縣伺 六年九月七日

欺隱<sup>ル</sup>甲糧<sup>ヲ</sup>條例ニ凡稅糧ヲ納ムルニ限ニ違

フテ完セサル者ハ明治五年第二百八十五

号布令ニ依テ處令ストアリ既ニ律例ニ掲

ケアル上ハ限ニ違フテ完セサル者ハ對シ

徴スル加息ハ罰金ト見做シ候儀ト相考候



立ハキ時ハ累  
ヨリ他ノ負債  
ニ關係致スハ  
キ第ニ無之ニ  
付自今六十日  
掲示スルニ及ス  
直ニ處命可致  
候條此布告  
候事

持律必推

然レハ限ニ違フ罪ハ別ニ律ニ照シ違令等  
ノ罰ニ處シ不申儀ニ候哉  
先般大政官御布告地方違式罪目中ニ地券  
所持ノ者諸上納銀ヲ怠リ地方ノ法ニ違背  
致ス者トアリ前條御布告ト抵觸スルニ似  
タリ右ハ何レニ後ヒ可然哉

指令

第一條 伺ノ通

第二條 改定律例第百八條ニ依ルヘシ

第百九條 凡田宅<sup>改</sup>版籍ノ文字ヲ<sup>改</sup>變易スル者ハ

懲役一年半財ヲ得ル者ハ<sup>計</sup>ハ竊盜ニ準  
シ重キニ後テ論ス

盜賣田宅

凡他人ノ田宅ヲ<sup>トウ</sup>盜賣<sup>バイ</sup>換<sup>カ</sup>易<sup>カ</sup>認<sup>カ</sup>典賣スル者ハ並  
ニ竊盜ニ準シテ論シ罪流三等ニ止ル官ニ係ル  
者ハ各二等ヲ加フ田産及ヒ典賣スル田價并ニ  
<sup>トシ</sup>遮<sup>シ</sup>得<sup>ル</sup>所ノ<sup>花</sup>利<sup>ハ</sup>各官ニ還シ主ニ<sup>給</sup>ス  
重典賣田宅

凡已ニ典賣シテ人ニ與ル田宅ヲ將テ重ネテ典  
賣スル者ハ得ル所ノ價錢ヲ<sup>計</sup>ハ竊盜ニ準



申テ論シ價ヲ追徴シテ主ニ還シ田宅ハ原ノ典  
 買主ニ附ス若シ重ネテ典買スルノ人及ヒ  
 情ヲ知ル者ハ犯人ト同罪價ヲ追シ官ニ入ル知  
 ラサル者ハ坐セス  
 其典スル所ノ田宅園林等年限已ニ滿テ本主價  
 ヲ備ヘテ取贖スルニ若シ典買主事故ニ託シテ  
 肯セサル者ハ答三十限外ニ於テ逾年得ル所ノ  
 花利ハ追徴シテ本主ニ給シ原價ニ依テ取贖セ  
 シム其年限滿ルト雖モ本主取贖スル力ナキ者  
 ハ此律ニ拘ハラス

東京裁判所 六年十二月二十四日

改定律例ニ正贓已ニ費用シテ現在セスト  
 雖モ賠償スヘキ資カアル者ハ必追徴シテ  
 本主ニ給ストアルニ依リ右追徴方法ノ儀  
 過日相伺候処有力無力ニ依リ酌量シテ追  
 徴スベシト御指令有之然ルニ別紙罪案大  
 塚仙吉ノ如キハ律上重典賣ノ本條ニ該ル  
 者ニシテ懲役二年申付仍ホ家作土藏ハ原  
 典買主内藤久八ニ付シ又價ハ追徴シテ右  
 子ノ典買主古川清七へ還ス可キ所仙吉儀



後有ハハ推大ノ二給

無カニシテ價ヲ徴スル事能ハサル者ニ付  
財主清七ノ損失ニ止メ可申哉又ハ本條ニ  
依レハ牙保情ヲ知ラサルハ坐セズトアル  
ト雖モ本犯資力ナケレハ牙保ニ追償申付  
可然哉依之右罪案并牙保ニ名ノ口供證書  
之相添此段奉伺候也  
但牙保ニ償申付候儀ニ候ハ工藤徳兵  
衛ハ奥印迄ノ儀ニ付西尾清兵衛一名ニ  
中附候筋ニ可有之哉此段モ添テ奉伺候  
也

指令

重典賣田宅條 已ニ典賣シテ人ニ與ル田  
宅ヲ將テ重子テ典賣スル者ニ擬シ窃盜ニ  
準シテ論シ  
懲役二年 賍金七十圓 大塚 仙吉  
重子テ典賣スル價金ハ追シテ其主ニ  
給ス可シト雖モ無カニシテ追徴スル  
能ハサレハ保人ニ償ハシム地受人ト  
混スヘカラス  
重典賣ノ情ヲ知ラス罪ノ科ス可キナシ

疑律必傳



無罪

同

西尾 清兵衛  
工藤 徳兵衛

棄毀器物椽櫓 新律綱領

凡人ノ器物ヲ棄毀シ及ヒ樹木椽櫓ヲ毀伐スル者ハ賊ニ計ヘ竊盜ニ準シテ論ス官物ハ一等ヲ加フ若シ官物ヲ遺失シ及ヒ誤毀スル者ハ各三等ヲ減シ並ニ數ヲ驗シテ追償ス私物ヲ遺失誤毀スル者ハ但夕償テ罪ニ坐セス

滋賀縣伺 十七年二月

故サラニ人ノ器物ヲ棄毀スルノ意ナシト

雖モ闘毆スルニ因テ圖ラス衣類器物ヲ毀損スルニ至ルハ誤毀ヲ以テ論シ闘毆スルニ因テ圖ラス衣類器物ヲ毀損スルニ至ルハ誤毀ヲ以テ論シ闘毆スルノ際人ノ器物ヲ以テ抛テ或ハ故意ニ出テ損スル者ハ棄毀ヲ以テ論シ可然哉

指令

伺之通 但器物ヲ抛テ毀損スルモ故意ニ出テ毀損ヲ圖ルノ状情ナキハ誤棄ヲ以テ論ス可シ



埼玉裁判所 七年四月

社寺境内其他餘地ノ樹木ヲ管廳ノ許可ヲ  
 經ス擅伐シテ未夕可<sub>レ</sub>用ニ供<sub>レ</sub>セ<sub>ル</sub>木材ノ俵  
 存在ノモ<sub>レ</sub>ハ仍<sub>レ</sub>木材處分ノ儀ハ管廳ノ  
 指揮ヲ受<sub>ケ</sub>シメ既ニ費用スルモ<sub>レ</sub>ハ其俵  
 ニ差置且其樹木官林ニ係<sub>ラ</sub>ス又自用ニ供  
 セサルヲ以テ代價追徴ノ限ニア<sub>ラ</sub>サル哉  
 一日ノ私欲ニア<sub>ラ</sub>ズシテ鄉村社又ハ道路  
 修繕ノ類總テ村用等ノ為メニ官林ヲ伐木  
 スル者曾テ盜情ナキヲ以テ戸婚律中人ノ

樹木ヲ毀伐スルニ擬シ竊盜ニ準シテ論シ  
 其情ヲ量<sub>リ</sub>實<sub>テ</sub>斷<sub>ル</sub>或聽<sub>テ</sub>贖<sub>ム</sub>セシメ仍<sub>レ</sub>木存在セ  
 ル木材及ヒ費用スレハ價金ヲ以テ追徴シ  
 地方廳ニ付シ可<sub>レ</sub>然哉

指令

第一條 擅伐スルモ未夕費用セ<sub>ル</sub>シテ自  
 首スレハ首免ヲ與<sub>ヘ</sub>木材處分ノ義ハ伺之  
 通其已ニ費用スルモ社寺修<sub>テ</sub>覆<sub>ル</sub>等ニ用<sub>ヒ</sub>テ  
 已ニ入<sub>レ</sub>サル者官林社寺境内其它餘地ニ  
 論<sub>ナ</sub>ク并ニ價<sub>ヲ</sub>追徴<sub>セ</sub>ス



第二條 鄉村社道路修繕其他村用等ノ為  
メニシテ無願ニテ官林ヲ伐木スト雖モ已  
ニ入レサル者ハ違令重ニ問ヒ贖ヲ聽マ費  
用スルモ價ヲ追徴スル限ニアラス

滋賀縣伺 七年五月十七日

自己山林ノ竹木ヲ伐採スルニ經界ヲ誤テ  
官山ノ竹木ヲ侵蝕スル者ハ棄毀器物椽檣  
條ニ依リ官物ヲ誤毀マル者ヲ以テ論シ贓  
ニ計ヘ竊盜ニ準シ一等ヲ加フル上ヨリ三  
等ヲ減シ可然哉 但本文之ヲ償ハシムル

ニ他ノ器物ヲ毀損スル者トハ違ヒ伐採ル  
ニ依テ原價ノ減スル者ニアラス因テ伐採  
ル所ノ竹木現在スレハ其終官ニ還シ別段  
償金ヲ出サシムルニ及ハス候哉

指令

呵責ニ處シ但書ノ通処分ス可シ

滋賀縣伺 七年五月十七日

人ノ器物ヲ棄毀スル賊及ヒ盜賊タルヲ知  
テ受クル者等ハ盜賊ノ追徴法ト同シク處  
分シ官物ヲ遺失誤毀スル追償ハ枉法不枉



法ノ追徴法ニ依リ私物ヲ遺失誤毀スルハ  
民法身代限りノ法ニ依リ処分メ可然哉

指令

盜賊タルヲ知テ受クル者ハ盜賊追徴法ト  
同シク処分スルノ器物ヲ棄毀シ及ヒ官物  
ヲ遺失誤毀スルモ亦同シ私物ヲ遺失誤毀  
スル者ハ伺ノ通

棄毀器物稼穡條例 改定律例

第一百條 凡牛馬ヲ失防シテ田野ノ穀麥ヲ毀  
損スル者ハ違式輕ニ依リ若シ毀損スル所賊

ニ計ヘテ重キ者ハ坐贓ニ依リ二等ヲ減シ仍  
ホ毀損スル所ノ物ヲ賠償セシム

静岡縣伺 七年四月十日

改定律例第一百條ニ凡牛馬ヲ失防シテ田  
野ノ穀麥ヲ毀損スル者去々坐贓ニ依リ二  
等ヲ減シ仍ホ毀損スル所ノ物ヲ賠償セシ  
ムトアリ然ルニ即今譬ハハ知一反ニ麥ヲ  
養スル未夕登熟セサルニ失防シテ一反ヲ  
毀損セハ其ノ登熟セサルヲ以テ沽計スヘ  
キ乎是レヲ以テ沽計スルトキハ則凡草ニ



異ナラスシテ評價スルヲ得ス依テ登熟ヲ以テ評價イタス可キ哉

指令

播種シタル麥種何斗何升計付ノ節及ヒ培養ノ度数等人力食料ノ費用ヲ以テ評價ス可シ其登熟ニ及フ者ハ作並ノ高下ヲ辨シ評價ス可シ

第百十一條 凡故ナク河防ヲ決潰シ水柵石籠ヲ毀損スル者ハ情ヲ量リテ不應為ニ問ヒ輕重ヲ分ツ

立嫡違法

新律綱領

凡嫡長子孫亡没疾病等ノ故無クシテ庶子ヲ立ル者ハ杖七十仍ホ嫡子ヲ改立セシム  
若シ養父母親生ノ子ナキニ養子捨去ル者ハ徒二年養父母親生ノ子アリ本生父母子ナクシテ還ラント欲スル者ハ聽ス

堺縣伺

七年四月四日

新律綱領立嫡違法條凡嫡長子孫亡没疾病

等ノ故無クシテ庶子ヲ立ル者ハ杖七十又明治六年七月廿二日華士族家督相續ハ必

第百六十三号  
明治六年七月廿二日大政官御布告  
本年一月第二十八号布告  
華士族家督相續ノ儀御詮議ノ次第有之左ノ通第百五章改正其五章追相繼條此章華士族布告ス事  
第一章改正家督相續ハ必總領ノ男子タル可シ若シ没



或廢篤疾等不得止之事故ハ其事實ヲ詳ニ次男ハ女子ヨリ養子相續願出ツベシ次男三男女子無之者ハ血統ノ者ヲ以テ相續願出ツベシ若シ故ナク順序ヲ越テ相續致ス者ハ相當ノ外可申付事

律例必携 二編

總領ノ男子タル可シ若シ亡没或ハ廢篤疾等不得止ノ事アレハ其事ヲ詳シ次男三男又ハ女子へ養子願出ツ可シト第二百六十三号ヲ以テ御布告アリ此律ト令トヲ此照相考生疑候本律ハ華士族ニ涯リ可相用ノ謂カ將夕平民ハ律ニ依リ華士族ハ令ニ依リ殊ノ處分可致カ

指令

華士族平民ノ別ナク律ニ依ルハ論ヲ俟タス第二百六十三号ノ御布告ハ華士族ニ限

リ前以テ願出可キ様ノ御趣意ニテ若シ順序ヲ越テ相續致ス者ハ律ノ通り處スル儀ナリ故ニ律ト令ト各殊ノ處分ニハ至ラス

立嫡違法條例 改定律例

第百十二條 凡子女ヲ棄ル者ハ父母養父母ヲ分タス並ニ懲役百日繼父母ハ一等ヲ加フ雇ヲ受ケ棄ル者ハ懲役九十日婦女ト雖氏收贖スルヲ聽サス

水澤縣伺 七年二月二十日

改定律例第百十二條戶替律立嫡違法條例



凡子女ヲ棄ル者ハ父母養父母ヲ分タス並ニ懲役百日因テ死ニ致ス者ハ如何處刑可致哉

指令

子女ヲ棄ル者ハ家計貧困ニシテ鞠育スルヲ能ハザルヨリ之ヲ道路又ハ他人ノ門外ニ遺棄シ人ノ乳養セシムルヲ望ム毫モ殺死スルノ情ナキ者則懲役百日ニ處ス若シ遺棄ニ因テ子女死ヲ致スハ是レ子女ノ不幸ナリ本例ニ依テ處分ス可シ

第百十三條 凡財ヲ圖リ人ノ子女ヲ乞養シテ棄ル者ハ懲役十年婦女ト雖凡收贖スルヲ聽サス殺ス者ハ斬

第百十四條 凡故シラニ墮胎スル者ハ懲役百日情ヲ知テ藥ヲ賣リ及ヒ技術ヲ施ス者ハ同罪婦女ト雖凡收贖スルヲ聽サス

新潟縣同 七年二月五日

夫ナキ婦女ニ和姦シ姦娠スルニ及ヒ相誤テ墮胎スル者ハ男女共改定律例第百十四條ニ依リ處断ス可キ哉



墮胎ノ情ヲ知テ為ニ技術ヲ施ス者ニ  
シ技術ヲ施サシムル者ハ不應為輕ニ問フ  
可キ哉

指令

第一條 伺ノ通

第二條 情ヲ量リ不應為輕重ニ問フ可シ

新泻縣伺 七年二月十四日

墮胎スル者及ヒ情ヲ知テ藥ヲ賣リ技術ヲ  
施ス者ハ婦女ト雖モ收贖ヲ聽サタル時ハ  
癡疾盲人七十以上ノ者モ皆実決スヘキ哉

指令

收贖ヲ聽ス

逐壻嫁女 新律綱領

凡無罪ノ壻ヲ逐テ女ヲ嫁シ或ハ再ヒ壻ヲ招ク  
者ハ杖九十其女ハ坐セス舅家ノ娶ル者及ヒ後  
贅ノ壻情ヲ知ル者同罪知ラサル者ハ坐セス

匿父母夫喪 新律綱領

凡父母及ヒ夫ノ喪ヲ聞キ匿シテ居喪セサル者  
ハ徒一年

其祖父母父母死スト訃稱シ若シクハ喪ニ居テ



嫁娶スル者ハ各杖一百

同書 六年十二月五日

第百七號

明治五年六月十日大政官御布告  
神社參詣輩自今死葬ニ預リ候者ト雖モ當日ノ可相憚事但服忌者ハ従前ノ通可相心得事

匿父母夫喪及ヒ居喪犯姦等律文ニ於テ喪ト称スルハ是迄喪服中ノ日數ヲ算定シ候ヘ共士申第百七十七号御布告及ヒ當省ヨリ式部寮へ問合ノ内服ハ神事ニモ不及憚ノ旨御指示有之候ニ付テハ自今喪中ト称スルハ忌中ノ日數ノミヲ相定候様致度此改相伺候也

指令

伺之通

子弟私擅用財新律綱領

凡同居ノ子弟私擅ニ父兄ノ財物ヲ用ユル者ハ一十兩ニ答一十一十兩毎トニ一等ヲ加ヘ罪杖一百ニ止ル

大分縣伺 六年七月二十五日

綱領親屬相盜律中他人ヲ將井テ己ノ家ノ財物ヲ盗ム條ハ有之候ヘ凡他人ヲ將井ス自ラ一等親尊長ノ財物ヲ盗ム條不相見候ヘ凡子弟私擅用財ヲ以テ論シ各居ノ卑幼



ニ於ルモ亦區別ハ無之哉

指令

一等親ノ卑幼ハ同居各居ニ拘ラス子弟私

擅用財ヲ以テ論ス

濱田縣伺 七年四月十九日

子弟私擅ニ父兄ノ財物ヲ用ユルニ他人情

ヲ知り密ニ其物品ヲ買得スル如キハ如何

処置仕候テ可然哉

指令

子弟自ラ持来ルヲ情ヲ知テ買得レハ盜駐

ヲ故買スル者ニ擬シ二等ヲ減ス若シ子弟  
ヲ勸メ持来ラシメテ買得レハ一等ヲ減ス

滋賀縣伺 七年五月二十七日

子弟私擅ニ父兄ノ財物ヲ用ヒ他ニ賣却ス

ル者ハ盜駐トハ異ナルニ依リ父兄其價ヲ

償ハサレハ直ニ追徴スルヲ得ス若シ父

兄其價ヲ償フニ買取者承諾セサル者ハ直

ニ官ヨリ追徴シ本主ニ給シ仍ホ其價ハ本

主ヨリ償ハシメ候テ可然哉

指令



伺之通

鹿兒島縣伺 七年七月三日

兄弟別居シタル後兄產業ヲ失ヒ弟ノ家ニ寄寓スル如キ同居ノ尊長ト可稱者家主ニ由ラスシテ私擅ニ家ノ財物ヲ用ユル者子弟私擅用財ト同ク論スルカ又各居ノ親屬相盜ヲ以テ論スル哉

指令

子弟私擅用財律ニ依リ子弟ノ擅用スルト同ク罪ヲ科ス

奈良縣伺 七年十月三十一日

親ト別居異産ノ子タルモノ若シ親宅へ忍入財物ヲ竊盜スルハ如何處断可然哉

指令

子弟私擅用財律ニ依テ科断ス可シ

子弟私擅用財條例 改定律例

第一百十五條 凡同居ノ卑幼尊長ニ由ラスシテ私擅ニ家ノ財物ヲ用フル者ハ子弟私擅用財律ニ依ル

第一百十六條 凡僧尼師ノ財物ヲ盗ム者ハ子弟



私擅用財律ニ依ル同居ノ徒弟相盗ム者ハ親屬相盜律ニ依リ凡人ニ三等ヲ減ス其各居ニ係ル者ハ師弟ト雖凡並ニ凡盜ヲ以テ論ス

逃亡 新律綱領

凡本籍ヲ脱シテ逃亡スル者ハ杖八十士族卒ハ一等ヲ加フ

新潟縣伺 六年十二月二十八日

別紙伺 御指令ノ趣 減丁ニシテ二年以外

ニ及フ者ハ此限ニアラズト有之ハ父兄ト共ニ逃亡スル子弟ハ一家共犯ヲ以テ論シ

止夕父兄ヲ坐シ子弟ハ坐セスト雖モ成丁ノ子弟父兄ト共ニ逃亡シ二年以外ニ及フ者ハ父兄ノ存没ニ拘ハラズ一家共犯ヲ以テ論セス皆逃亡本律ニ諛テ候哉又ハ逃亡中父兄ハ死没シ子弟ハ復歸セス二年以外ニ及フ者ハ一家共犯ノ例ニ非ス逃亡本律ニ諛ト雖モ其子弟成丁ニ非ス及ヒ二年以外ニ及ハサル者ハ仍ホ一家共犯ヲ以テ論シ候哉

指令



父兄ト共ニ逃亡スル子弟ハ成丁未成丁ニ  
論ナク一家共犯ヲ以テ論スト雖厄逃亡中  
父兄死亡シ成丁ノ子弟復歸セスシテ二年  
ヲ過ル者ハ逃亡律ニ科シ未成丁ノ子弟ハ  
罪ヲ科セス

濱田縣伺 七年二月五日

名例律犯罪時未老疾條ニ罪ヲ犯ス時幼少  
ニシテ事發スル時長大ナル者ハ幼少ニ依  
テ論スト有之候得共其幼少ノ時逃亡シ長  
大ニ及シテ復歸スル者ハ其復歸スル迄ヲ

犯罪中ト見做シ長大ノ者犯罪ノ例ニ從ヒ  
處刑仕候テ可然哉

指令

幼少ノ時逃亡シ長大ニシテ復歸スル者其  
滿十五年ニ成シ年月ヨリ二年以外ニ及ハ  
サレバ逃亡律ニ處セス

島根縣伺 七年三月四日

一家脱籍ノ者其家長ヲ坐シ餘ハ不問ニ可  
處哉

指令



伺ノ通

岡山縣伺 七年五月十九日

御省日誌中茨城裁判所伺御指令ニ被告人  
逃亡ニ相違ナキ時ハ云々行衛知レサル者  
ヲ以テ過テ逃亡トナス可ラサル事ト有之  
右逃亡行衛知レサルハ其實際何ヲ以テ區  
分相立候テ可然哉

指令

逃亡トハ有心規避シテ其踪跡ヲ辯曉スル  
者ヲ云フ行衛知レザルトハ規避ノ確證ナ

クシテ其居處ノ分明ナラサル者ヲ云フ故  
ニ假令情状逃亡ナル可シト思量スルノ之  
レアリトモ有心規避ノ確證ヲ得サル時ハ  
總テ行衛知レサル者ト看倣ス可キ事

埼玉裁判所伺 七年十月十三日

如雜ノ時携帶セラレ父祖ト共ニ逃亡ノ後  
其父祖客死スルニ其子孫父祖ノ郷貫ヲ知  
テ其終流寓シ復歸セサル成丁未成丁者若  
シ其父祖ノ郷貫ヲ知ラスシテ其終流寓ス  
ル成丁未成丁者



同上脱籍中互ニ相離レ各流浪スル後父祖  
 既ニ本籍ニ復スルヲ知テ尚流浪スル子孫  
 成丁未成丁者若シ其父祖ノ歸籍ヲ知ラズ  
 シテ其俗流浪スル成丁未成丁者  
 父祖逃亡流浪中ニ産シタル子孫其父祖死  
 亡ノ後其原籍ヲ知テ復歸セス及ヒ原籍ヲ  
 知ラスト雖モ更ニ八籍ノ手頃モ為サス流  
 寓スル成丁未成丁者若シ其父祖ト互ニ分  
 ル々後父祖ノ本籍ヘ復スルヲ知テ仍ホ流  
 寓スル成丁未成丁者

右ハ本年日誌第二十四号七年一月十八日  
 附筑摩縣伺御指令ノ趣同八十八号同縣へ  
 御達書ヲ照シ論スレハ各條共ニ其罪ヲ問  
 ハスシテ本人願ノ地ニ入籍セシムルニ止  
 △然ル處右各條共未成丁者ハ固リニテ其  
 成丁者モ父祖ノ既ニ歸籍若クハ死亡スル  
 ヲ知ラスシテ流浪スルハ共ニ論スルナシ  
 ト雖モ餘ノ成丁者ニ至テハ速ニ事由ヲ官  
 ニ告ケ歸籍若クハ入籍ノ手頃尽ササルヲ  
 得ス然ルニ仍ホ依然トシテ流浪スル者昨



明治六年第百七十三号以後二年ヲ過ルハ  
即チ逃亡本律ニ科シ其未夕二年ニ滿夕サ  
ルモ五十日ヲ過ルハ違令重若クハ輕ニ科  
セサルヲ得サルヲ覺テ依テハ筑摩縣ヘノ  
御達書其罪問ハストノ御趣意何分解シ兼  
候條奉伺候也

指令

父兄逃亡ノ時隨行ノ子弟ハ成丁ト雖モ一  
家共犯例ニ依リ其罪ヲ問ハス父兄客死ス  
ルモ亦同シ但シ本人情願ノ地ニ入籍セ

シム可シ

逃亡條例 改定律例

第百十七條 凡脱籍逃亡シテ二年以外復歸セ  
サル者ハ律ニ依テ科斷シ華士族ハ破廉耻甚  
ヲ以テ論ス

第百十八條 凡逃亡シテ二年以外復歸シ及ヒ  
自首スル者ハ首免ヲ聽サスト雖モ平民ハ贖  
罪ニ處シ華士族ハ族ヲ復シテ禄ヲ給セス

白川縣伺

六年十一月二十日

白川縣貫屬  
死士族無籍

緒方丹治



右ハ別紙罪案ノ通之戸婚律逃亡條例ニ照シ復シ族可申付哉ノ所丹治儀無祿ノ者ニ候得ハ有祿士族且平民ノ権衡ト不釣令ニ有之右様ノ者ハ族ヲ復シテ贖罪ニ処ス可キヤ

指令

戸婚律逃亡條 逃亡シテ二年以外復歸シ及ヒ自首スル者ハ云々平民ハ贖罪ニ処シ華士族ハ族ヲ復ンテ祿ヲ給セズト云ニ依リ諛犯無祿タルヲ以テ族ヲ復シ禁錮九十

日例ニ依リ贖ヲ聽ス

贖罪金六圓七十五錢

緒方丹治

白川縣伺 七年二月二十五日

嚮キニ四海一家ノ御宏ヲ謨ハ被為立ト雖モ衆庶ノ旅行ニ至テノ自ラ自他ノ別右之管内ノ儀八九十日以上寄雷ニ係ル者其段戸長へ届置ヘキ戸籍ノ方法ニ有之他管ニ出ル者日數ノ多寡ヲ問ハズ官廳ニ陳告ス斯ク別アル片ハ其法ヲ犯ス者ノ罪亦輕重無ル可ラス然ニ爰ニ一時縁トシテ擅ニ管内所



々ヲ徘徊シ一人ハ九十日以外二年以内復  
帰致シ一人ハ二年以外ニ及シテ復帰セハ  
他ノ管内ニ出ルニ非スト云ヲ以テ其二年  
以内ナル者ハ違式ノ重キ以外ナル者ハ違  
令ノ重キニ問ヒ復帰スルヲ以テ贖罪シ復  
帰セサルハ實斷ス若自首スレハ其罪ヲ免  
シ可然哉將ス假令管内ナルモ最初脱籍逃  
去ノ念頭ヲ懐ク者二年ヲ過レハ逃亡ヲ以  
テ科斷スル固ヨリ論ヲ俟タサルヘキ處其  
二年以内ナレハ仍ホ違令重キニ問フヘキ

乎果シテ然レハ他管ニ出ル者ニハ一時縁  
ノ者ト脱籍逃亡ノ念頭ヲ懐ク者トニ論ナ  
ク止夕二年内外ノ區別ノ有之候ヘ共右  
推衡ニハ関セスシテ可然哉 但本文二年  
以外ニ及テ復帰スル者辛未戸籍方法被設  
以前家出シテ既ニ除籍セララル、者ト雖モ  
仍ホ違令重キニ問ヒ可然哉且又一時縁ノ  
者一年ハ管内ヲ徘徊シ一年ハ他管ニ在ル  
等自他ニ跨ル者ハ合シテ二年ナレハ脱籍  
逃亡ヲ以テ論ス可キ乎又ハ管内ノ一年ハ



違式ニ問ヒ他管ニ在ル一年ハ違令ニ問ヒ  
二罪俱発ノ例ニ依リ可然哉

指令

戸長親屬ニモ陳告セス擅ニ本所ヲ離レ管  
内他村ニ滞在スル者五十日以外ハ違式輕  
二年以外ハ逃亡律ニ科ス復帰シテ自首ス  
ル者二年以内ハ罪ヲ免シ二年以外ハ改定  
律例第百十八條ニ依テ處分ス 但書管ノ  
内外滞在ノ日數ヲ合シテ二年ヲ過レハ逃  
亡律ニ科シ二年ニ滿サレハ改定律例第百

二十條ニ問ヒ一ノ重キ違令重ヲ以テ罪ヲ  
科ス

濱田縣伺 七年三月 十二日

官廳ニ陳告シテ他管ニ出テ歸期ヲ過テヨ  
リ二年以外復帰自首スル者ハ違令重キニ  
擬ス可キヤ或ハ逃亡二年以外ニ及ンテ復  
帰自首スル者ニ擬ス可キ哉

指令

改定律例第百十八條ニ依テ處分ス可シ  
但シ初メニ陳告セシハ究テ復帰ノ心アル



者而テ期ヲ過テ後二年ノ歲月ヲ越ル必ス  
子細アル可シ其由ヲ審問シテ逃亡ニ帰ス  
ル者ハ本文ニ處ス可シ

筑摩縣伺

七年三月  
三十一日

第二百九十七條ニ云凡犯人責付内ニ逃走  
スル者ハ本罪ニ一等ヲ加フ云々其自首ス  
ル者ハ止夕本罪ヲ科シ逃罪ヲ免スト右ハ  
犯人己ノ罪ヲ避シテ欲シテ逃亡スル者  
ニ有之自ラ本籍ヲ逃亡スル者トハ異ナリ  
ト雖モ若シ二年以外ニテ復帰シ及ヒ自首

スル者ハ第一百十八條ニ依リニ罪俱發ノ例  
ニ照シ重キニ從ヒ其罪ヲ問ヒ可然哉

指令

伺之通

石川縣伺

七年  
三月

脱走尋申復帰スル者假令ハ管内加賀国居  
住ノ者脱走同管内能登国僻所ノ地ニ潜伏  
致居或ハ其筋ヘモ不相届甲區ヨリ乙區ヘ  
相越シ所々徘徊稼キ居候者等他管ニ出テ  
スト雖モ二年以外ニ及フハ逃亡律ニ問ヒ



二年以内五十日以外ニ係ルハ改定律例第  
百二十條ニ比擬シ違令重ニ問ヒ可然哉

指令

戸長親屬ニモ陳告セズ擅ニ本所ヲ離レ管  
内他村ニ滞在スル者五十日以外ハ違式輕  
二年以外ハ逃亡律ニ科ス復歸自首スル者  
二年以内ハ罪ヲ免シ二年以外ハ改定律例  
第百十八條ニ依テ處分ス

長野縣伺 七年四月

脱籍逃亡シテ二年以外ニ至リ復歸シ及ヒ

自首スル老幼癡疾婦女ハ全免可仕哉又ハ  
本罪ニ何等ヲ減シ取贖セシメ可然哉

指令

呵責ニ處ス

第百十九條 凡逃亡スル者再犯以上ハ一等ヲ  
累加シ罪懲役一年ニ止ル

第百二十條 凡官廳ニ陳告セズシテ私擅ニ他  
管ニ出テ五十日ヲ過ル者ハ違令重ニ問フ

京都裁判所伺 六年十一月二日

改定律例百二十條官廳ニ陳告セズシテ私



擅ニ他管ニ出テ五十日ヲ過ル者ハ違令重  
ニ問フト之アリ候處若生籍ヲ脱スト雖モ  
他管ニ出サル者仍ホ五十日内外ヲ以テ違  
令輕重ニ問ヒ二年以外ハ逃亡ヲ以テ論ス  
可哉

指令

他管ニ出スト雖モ本籍ヲ脱シ所在不分明  
ナル者二年以内ハ違式輕ニ問フ二年以外  
ハ逃亡ヲ以テ論ス

筑摩縣伺 七年五月九日

新律中凡雇人逃亡スル者答三十ト有之然  
ルニ本籍ヲ脱シ逃亡スル者一ハ管廳ニ陳  
告セスシテ私擅ニ他管ニ出テ五十日ヲ過  
ル者一ハ脱籍逃亡シテ二年以外復歸セサ  
ル者ト問罪ノ輕重有之候處右雇人ノ逃亡  
スル如キハ仍ホ日數ノ多寡ヲ論セス懲役  
三十日ニ問ヒ可然哉

指令

雇人逃亡スル者懲役三十日トハ雇主ノ家  
ヲ逃亡シ他管地ニ出ルモ五十日ヲ過サル



者ヲ謂フ若シ他管地ニ出テ五十日ヲ過ル者及ヒ二年ヲ過ル者ハ例第百二十條并ニ逃亡律ニ依テ科斷スヘシ

第百二十一條 凡外國ニ逃亡スル者ハ逃亡罪

ニ二等ヲ加フ

奴婢逃亡 新律綱領

凡奴婢及ヒ雇人逃亡スル者ハ答三十

京都裁判所 同 六年十月

伊勢国桑名郡桑名船場町商下里貞吉雇人利七別紙假口書之雇主ノ家ヲ逃亡シ他

管ニ出ルト雖モ五十日ヲ過キサルニ付雇人逃亡律ニ依リ処斷可致哉但シ雇主ノ財ヲ詐取スル賍九十圓詐欺取財律ニ依リ懲役三年ノ処從祖伯父為二代首シ償還ス從祖伯父ノ堂姪ニ於ケル四等親ナルヲ以テ親屬容隱ノ例ニ照セハ本罪三等ヲ減ス可シト雖モ父二代リ家事ヲ經理シ如少ヨリ鞠育ノ恩アル者ニ付同居親屬ヲ以テ全論シ免ヲ與フ可キ哉因テ雇人逃亡ノ重ニ就キ懲役三十日可申付哉



指令

戸婚律 雇人逃亡スル者

懲役三十日

利七

家長ノ財ヲ詐取スルノ罪ハ同居ノ親  
屬為メニ代首シ駐金ヲ償還スルヲ以  
テ全免ヲ與フ其逃亡罪ハ捕獲首告セ  
サルヲ以テ本擬ノ如シ

擬律必携二篇中終



